

当院における SAVING プロジェクトの活動報告と経費改善効果
朝倉医師会病院 リハビリテーション科 ○山本健太郎

【目的】

当院の「経費改善」を目的とし、収入面と支出面の改善を図るべく令和6年8月に SAVING プロジェクトを発足。23 部署のメンバーで構成し病院全体、各部署でそれぞれ経費改善や業務効率化に向けて話し合い、取り組みを行ってきた。職員への認知や収支に対する意識向上、また、院内全体、および個々の経費改善文化の定着を目的としている。

【背景】

日頃より各部署および委員会等において、経費削減に対して取り組んでいる。今回、病院全体として、経費改善を推進し、利益率向上と業務効率化を目指している。

【施策】

- ・ペーパータオル使用量減少に向けた取り組み（職員への周知、案内ポップ作成）
- ・電気代削減に向けた取り組み（エレベーター内の川柳、電気スイッチのシール貼付）
- ・職員の声（経費改善に対する職員の声を募集）
- ・各部署で半期ごとの目標設定・フィードバック
- ・AI を活用した議事録作成の推進
- ・山下医科器械株式会社様との情報共有・アドバイス
- ・その他
(リサイクルインクの導入に向けた試行、掃除ロボットの導入検討、脱フロンガス、PH スティックタオルや不織布ガーゼの使用量削減、各部署需要品の適正化)

【結果】

ペーパータオル使用量は、令和5年度下期と令和6年度下期を比較し197600枚、金額にして63800円の削減。電気代においては令和6年度上期と令和7年度上期を比較し電気料金の単価が上昇していることもあり、電気代金は増加したが、電気使用量は70210/kwhの削減。職員の声に対しては、担当部署で対応策を検討しみんなの掲示板を利用し掲示。職員への返答を行っている。議事録作成に関して、各部署内会議や委員会での議事録作成にAIの活用が徐々に浸透している。実際に導入している会議も増加しており今後も業務効率の向上を目指したい。

山下医科器械株式会社様による棚卸時の適正在庫の管理アドバイスや安価な商品の紹介など情報を共有し、より当院に適した物品の購入が可能となっている。また、SPD・需要品の購入金額も約635万円（2025年10月現在）減少している。

【結語】

約1年4ヶ月の活動期間（令和7年12月現在）で上記結果のように需要品使用量や電気使用量の削減は実現できている。この期間で少しずつではあるが職員の経費に対する意識の向上、コミュニケーションは増加してきていると実感するが、今後も SAVING プロジェクトの活動を継続し、啓蒙活動を行うことで職員個々の更なる意識向上が望めると考える。各個人が小さなことを積み重ねることで、持続的な病院の経費改善文化として定着することを期待している。